

第1回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

■日時：平成27年5月28日（木）午前11時00分～午後0時00分

■場所：吉野町中央公民館2階 第3・4研修室

■出席者：第1回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 出席者名簿のとおり

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 副町長挨拶
4. 委員紹介

■事務局より、資料1及び出席者名簿にてご紹介。

5. 会長・副会長選出

■委員より事務局案の提示要求があり、事務局案を提示し、合意。

会長：木村俊昭委員（5号委員）

副会長：上田由賀委員（1号委員）

■会長挨拶：おはようございます。今、会長にご指名いただきまして、これから皆様とともに策定作業を進めていきたいと思っております。私自身、大学に入った時から、まちづくり、ひとづくりが大事だと思っています。どうすることが地域にとっていいのだろうかということを考えてきました。33年前から、産業歴史文化を徹底的に掘り起こして、研ぎをかけて世界発信できる形をとらなければならないと考えています。その取り組みを進めるためには、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、近所の皆さんだけでやるのではなく、そこに子どもたちが入っていなければいけない、愛着心ある子どもたちを今の大人たちが育てる、地域一帯となって育てることが大事だと思っています。それだけではまだ足りなくて、それぞればらばらに動くのではなく、部分個別の最も良い状態、最適化ではなく、全体を最適化しなければならない。商店街をどうするか、この地域をどうするかということも大事だが、そこをどう関連づけられるかがより大事。吉野であれば、どういう価値観があるのか、ともに作りあげる、価値競争をしていかなければならない。行政職員をやってきて、事業もしている中で実感することが、費用対効果を考えなければならない、いわゆる事業構想力を持たなければならない。稼ぐということに対して、意識を持たなければならない。今回、会長に就任させていただき、皆様の声を広く聴く「広聴」を最重要に考えていきたいと考えています。委員の皆様だけでなく、いろんな方々に意見を聞かせていただきながら、「広聴」を重視して、実学で現場重視の視点で人口ビジョン、地方版総合戦略の中に組み込むような形になれば、吉野に住んで良かったな、住み続けたいなと子どもたちが思えるようになればと思います。よろしくお願いいたします。

6. 会議の公開及び会議録の公表について（～11:20）

■事務局より資料3を元に説明。

- ・会議は原則公開とし、傍聴可能とする。
- ・傍聴定員は、10名とする。
- ・会議内容について録音し、会議録を摘要録で作成し、町ホームページで公開する。

8. 案件

(1) 吉野町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について

- 事務局より、資料4をもとに説明。

(2) 吉野町の人口の現状分析について（～11:45）

- 事務局より、資料5をもとに説明。

■ご意見、質疑等

- ・会長：老年人口の動向が重要である。75歳以上の後期高齢者の方々がどう推移するのか。例えば地区毎などでの集計も重要である。
自治会の加入率も拾ってはどうか。吉野町の場合は、加入率が高い。
他地域では、高齢者が自分は役に立たないという理由で自治会に加入しない例も増えている。加入していないとそこに誰が住んでいるか分からないということが起きる。
地域での支え合いができなくなったり、認知症が進行するなど、様々な影響がある。

(3) その他

■ご意見、質疑等

- ・委員：アンケート結果等の説明に時間を費やし、各委員が意見を発言する機会が少ないことが多い。地域活性化に繋がるような意見を出し合える会議にしていきたい。
- ・会長：本日も、出席者には、一言ずつ発言いただく機会を作りたいと考えています。
今後、各地区を町長と回らしていただく予定だが、広聴を重視し、代表だけでなく、出席者の意見を広く聴かせていきたい。

■各委員からのご意見等

- ・委員：文庫というお母さんなど、地域の方と関わり、14年が経過した。つなぐことができているが、もっと町内の団体が繋がればもっとおもしろいことができると思う。
- ・委員：まちづくり、ひとづくりでスタートしている。子どもたちが団体スポーツをできる環境にないことから、近隣を巻き込んだ活動をしている。会長から、数字が大事との話をいただき、高齢者を中心にアンケートを実施した。仲間が増えて、話す機会ができた、高齢者が外出するときに服装に気をつけるようになったなど、アンケートしなければ、聞くことができない意見を聞くことができた。
- ・委員：吉野山には子どもさんの家庭が多い。その親は、観光だけでなく、スーパーなどに卸すなど、外に積極的に出ている。吉野山では、子どもを見る機会が多くなった。吉野町全体に広がればと思っている。吉野山がすべてうまくいっているわけではなく、苦戦を強いられているが、インバウンド観光など追い風もある。製材業の皆様もがんばってい

ると聞いている。雇用の創出や人口も統計の予定通りになるのではなく、人口減少を食い止めることもできると思う。

- ・ 委員：製材組合の青年部だが、会員も減っている。雇用の機会を作っても吉野町内から人が来ない。五條や大淀から来る人が多い。町内から来る人が増えれば、いっしょに盛り上げていこうと励みにもなる。
- ・ 委員：この会にも幅広い方が参加している。広聴はいい言葉だと感じる。いろんな意見、各業界の方の想いがあると思う。意見交換をして、地域金融機関として応援できるところは精一杯させていただきたい。
- ・ 委員：ふるさと教育を4年前から実施している。子どもたちにふるさとに愛着を持ってもらう、知ることが大事だと思っている。
- ・ 委員：吉野高校は、113年の古い学校。定員割れの厳しい状況が続いている。地域とともにある学校作りとして、奈良県教育委員会の指定を受けて、本校と吉野町、各保育園、小学校、中学校と連携をして、様々な事業を展開した。現在県立高校33校ありますが、教職員一丸となって本校の生き残る道を考えていきたい。推進会議の中でも吉野高校に対する意見もいただきながら考えていきたい。吉野というネームバリューのある学校ですので、ここを活かしていきたい。吉野の地元の産業をうまく活かしていきたい。学校内に活性化委員会も作り、県内中学校などに営業に出るなどの活動を行っている。
- ・ 委員：商工会の現状は把握しきれていないので、次回には現状をお伝えできればと思う。吉野町に住んで、町内で子育てを実際に行っている。進学するときに出ていってしまう。それはなぜか。帰ってくる土壌も必要。吉野で働いている人が吉野町に住んでいるのか。それがなぜかを把握していかなければならない。自分の息子が進学で町を離れたとしても、愛着を持って帰ってこられるまちにしたいと思う。
- ・ 委員：毎月第3土曜日に役場の協働推進課と吉野町のスマイルバスで行くディープな旅を提案している。地元のバスを使って、毎回20名定員で実施している。県外、町外の参加者が多かったが、今年は、町民の方が多くなっている。町外からお嫁に来た方など、地元の方の見直しにもなっている。
- ・ 委員：吉野貯木の木材産業の有志でやっている会である。木材産業発展の礎になった貯木であるが、木材需要の衰退や社会構造の変化により厳しい状況である。実際に扱っている製品はいいものであるが、それをどう伝えるか。まち歩きをして、実際にどんな人がどんな想いでやっているのかを知ってもらう機会を作っている。木材需要が減っている中でもこの木を使いたいという人を少しでも増やしていく活動をしている。中学校の机を使ってもらっている。中学生の子どもといっしょに机を作って、その机で3年間過ごしてもらう。木のある暮らしが身近でできること、地域に対する愛着をもってもらう。この子のために作るという想いを知ってもらう。子どもがいつかは帰ってきたいと思える楽しい地域にしたい。推進会議の中でも10年、20年先でも何か商売したいと思える地域にしたい。
- ・ 会長：まちに戻ってきてほしいと思った時に愛着心を持てる子どもを育てないと戻ってこない。大人たちが、現場で汗を流しながらみんなで苦労しながら、悩みぬいて、この地域をなんとかしたいと動きを作っている地域は注目される。地道に急ぐな、あせるな、慌て

るな、近道するな、おごるな、決してあきらめるなという想いで、5年、10年かけてじっくりやっ払いこうとスタートしているところは、少しずつ変わって、そのうち急に変わってくる。委員の方から発言がありましたとおり、会議ですので、一言でも発言していただいで帰っていただくように進めさせていただきます。

■第2回以降の推進会議日程について、事務局案を提示。

第2回 6月17日(水) 13:30～

第3回 7月15日(水) 13:30～

第4回 8月18日(火) 13:30～

第5回 9月15日(火) 13:30～

■委員報酬の振込先口座指定届の提出依頼について、事務局より説明。